

## ビジネス日本語教育の指導と実践

福岡昌子

### Guidance and Practice of “Business Japanese-Language Education”

FUKUOKA Masako

〈Abstract〉

The Center for International Education & Research has been developing the course, “Business Japanese-language education” since fiscal year 2011. The rationale was

(1) Support for getting a job, internships and consultations for foreign students were based on the national policy “Plan for 300,000 Exchange Students” which was launched in 2008. (2) The number of foreign students aiming at getting a job in a Japanese company has been increasing, and we needed job hunting support for them with a different content to that offered to Japanese students.

The following were included in business Japanese-language education. (1) self-analysis methodology, the knowledge necessary to job hunt, mental attitude and the ways of industry with enterprise and job category study. (2) Respectful business language used on the telephone, business manners and how to fill out documents. (3) How to fill out a personal history form “entry seat” and dealing with a group interview. (4) Hearing about the experiences of job hunting from a former foreign student. (5) An enterprise tour and other field visits.

In this report, I introduce the results of the class questionnaire which was deployed to and targeted at foreign students who attended lectures in the previous fiscal year. It considered the future form of “Business Japanese-language education”.

キーワード：ビジネス日本語、ビジネス敬語、ビジネスマナー、自己分析、企業訪問

#### 1. はじめに

国際交流センターでは、2010年度より「ビジネス日本語教育」の授業を展開している。その経緯は次の2点である。まず、アジア人財資金構想「高度実践留学生育成事業」<sup>(1)</sup>が2007年度から2012年度まで実施されたが、2011年度以降は各大学の取り組みとして独自に継続して行うよう要請されたためである。そこで、どのように専門教育・日本語教育、就職活動支援を行うべきか検討した結果、「ビジネス日本語教育」の授業を通してならばアジア人財資金構想「高度実践留学生育成事業」の継続事業として実施できると思われた。2点目は、2008年に策定された「留学生30万人計画」<sup>(2)</sup>に基づき、大学等における留学生への就職支援の取り組み強化やインターンシップ、就職相談など留学生の就職支援が、産

学官が連携して行われるようになってきたからである。実際に日本企業に就職を目指す留学生が増え、日本人学生対象とは別枠で留学生のための就職活動支援の必要が出てきた。

「ビジネス日本語教育」の展開に伴って、福岡・趙 (2013) は、三重県内の企業 300 社にアンケート調査を行い、日本企業が留学生の雇用についてどのような見解を持っているか調べた。その結果、まだ留学生の雇用には積極的ではないものの、製造業を中心に技術開発、海外・営業、翻訳・通訳の職種で留学生雇用に関心があり、大学の教育でも「ビジネス日本語」や「日本文化」、「日本事情」の指導を求めていることがわかった。そして、日本企業が高度外国人材の活用獲得を本格的に開始するにあたっては、高度外国人材の獲得に最も近い位置にいる大学との連携は必須であり、高度外国人材としての留学生の育成に関わる機関では日本企業文化への理解教育が重要な鍵となることを示唆した。さらに、福岡 (2015 a) では、三重県内の留学生が日本企業での就職に対してどのような見解を持っているのか調査し、これらの調査結果と昨年度三重県の企業を対象に実施した留学生雇用に関する調査結果 (福岡・趙: 2013) とを比較し、留学生の雇用および就職問題について考察した。

本稿では、3 年間実施してきた上級総合科目「ビジネス日本語教育」を紹介し、さらに、受講した留学生からのアンケート結果をまとめ、今後の「ビジネス日本語教育」の方向性について検討したい。

## 2. 指導の概要

授業の目標は、次の 5 点にまとめられる。①将来日本で就職し、日本語を使ってビジネスをしてみたい留学生のために、自己分析を通して、就職活動に必要な知識と心構え、業界・企業・職種研究の方法を知る。②電話で使われるビジネス敬語、ビジネスマナー、文書の書き方を実践的に学ぶ。③実際に就職活動に必要な履歴書やエントリーシートの書き方、集団面接の方法を知る。④実際に職場ではどのような敬語が使われているのか、ドラマや映画を通して知る。⑤その他、就職した元留学生の就職活動の体験談や企業見学を行って働く現場を知ろうとした。主なシラバスは表 1 のとおりである。

次に、主な指導項目にしたがって、実践した授業内容について述べる。

### (1) 先輩の話を聞く

本授業では、「ビジネス日本語教育」を開講して以来、初年度を除き毎年内定が決まった留学生から、就職活動の体験についての話を聞いている。いつ頃から就職活動を開始したか、実際の就職活動の様子や面接時の面接官からの質問など、詳細な点について具体的な就職活動の体験談を聞くことができた。

表1 上級総合日本語「ビジネス日本語教育」

第1回	オリエンテーション 就職活動に関わる知識や心構え
第2回	先輩の就職活動の体験を聞く
第3回	就職活動の心構えと自己分析について①
第4回	就職活動の心構えと自己分析について② – 自己分析の発表 –
第5回	(1) ビジネス敬語 – 電話 –
第6回	業界・職種・企業研究について① – キャリア支援センター訪問 –
第7回	業界・職種・企業研究について② – 関心のある業界・職種・企業の発表 –
第8回	(2) ビジネス敬語 – ビジネスマナー –
第9回	エントリーシートや履歴書の書き方について
第10回	(3) ビジネス敬語① – ドラマや映画から学ぶ –
第11回	ビジネス敬語②
第12回	(4) SPI 試験について
第13回	面接の方法と対策①
第14回	面接の方法と対策② – 実践的な面接練習：集団面接 –
第15回	企業訪問・見学
第16回	レポート提出

(2) 就職活動の心構えと自己分析について

『業界選び・仕事選び・自己分析・自己PR』(2012)を参考にし、これまでの勉強やクラブ活動などを通して、自分の長所や短所はどのような点なのか、どのような点が自己アピールできる点なのかを、留学生一人一人に確認する作業を行った。

(3) 業界・職種・企業研究について

(2)の自己分析をもとに、自分に適した業界や業種について検討し、現在の日本におけるその業界について各自で調べて発表させた。

(4) エントリーシートや履歴書の書き方

本学の就職活動用に販売している履歴書を使って、実際に履歴書を書く作業を行った。

(5) SPI 試験<sup>(3)</sup>

近年実施されている一般常識テスト・適正検査であるが、日本語力を問う問題に挑戦させた。

(6) ビジネス敬語 – 電話・ビジネスマナー・文書 –

『映像で学ぶビジネス日本語』シリーズのDVDを使ってビジネスマナーを学んだり、接客やビジネス文書に関する課題に取り組んだりした。また、『新実用日本語新ビジネ

スマン物語』(2008) 他を使って、どのような電話応対が適切か考えさせたりした。

(7) ビジネス敬語—ドラマや映画から—

ビジネス敬語を学ぶ一環として、日本のビジネスに関連したドラマや映画から、その一部を聴解問題として聞かせて、各場面における尊敬語や謙譲語の使い方について学習した。

(8) 集団面接の練習

面接練習の際には、集団面接を体験させた。本学就職支援センターの教員にご協力いただき、提出した履歴書をもとに学生に質問を行った。他者の返答内容や態度について、観察を通して集団面接の方法を学んだ。

(9) 企業訪問・企業見学

企業のご協力を得て、津市に本社を置く井村屋製菓株式会社、百五銀行を訪問し、さまざまな部署を見学させていただいた。学生にとっては、日本ではじめての企業訪問を体験することができた。

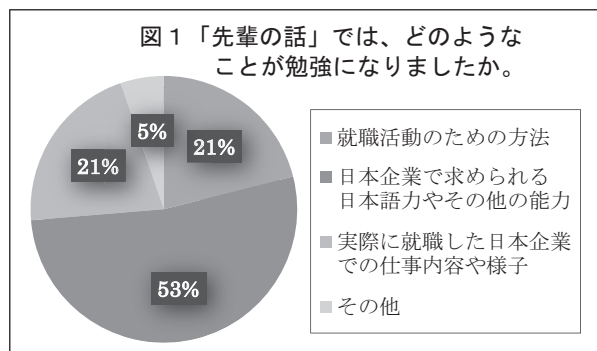
### 3. 受講した学生からのアンケート調査結果

#### 3-1. アンケート調査の結果

2013 年度に受講した学生 20 名に、次の①～⑤の 5 項目に関するアンケート調査 (複数回答) を実施した。①「先輩の体験談」ではどのようなことがわかったか、②ビジネス日本語教育の授業の「電話応対」では、どのようなことが勉強になったか、③「自己分析」や「企業研究」では、どのようなことを知ったか、④「履歴書」や「集団面接」では、どのようなことが勉強になったか、⑤「企業訪問」では、どのようなことを理解したかである。下記に、その結果について述べる。

① 「先輩の体験談」

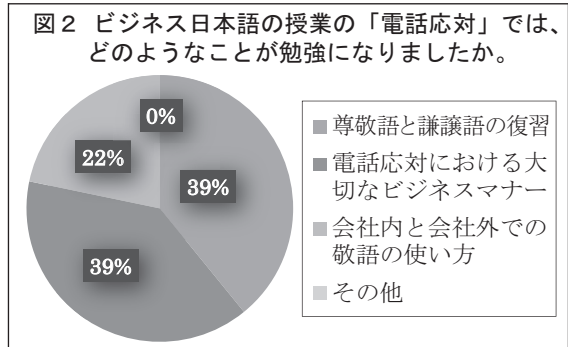
これまで日本企業に就職が決まった 4 人の留学生が、本授業において就職の体験談を話している。2013 年度は、元日本語日本文化研修生だったタイの留学生から三重県の企業に就職した話を聞いた。4 人の先輩の中には、2011 年度本授業を受け、日本企業に関心を持ち、大手広告代理店に採用が決まった学生もいた。特に、日本企業で求められる日本語力について多く



の関心が集まった。就職活動の方法についての質問も多かった。

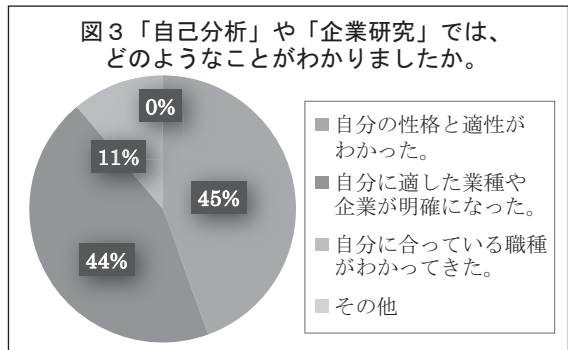
② 電話で使われるビジネス敬語

聴解練習や課題練習の中で、尊敬語と謙譲語の使い分け、「電話応対」で求められるビジネスマナーが特に難しく、会社内と会社外での敬語の使い方について、初めてその使い方を学習したという学生が多かった。



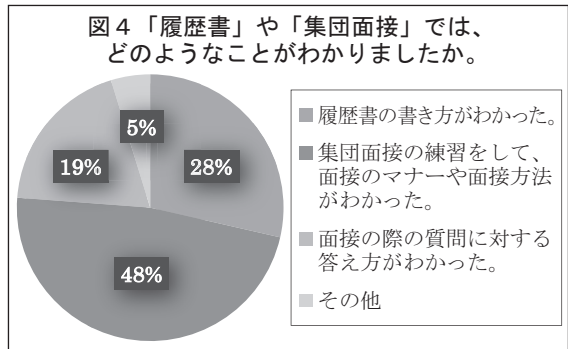
③ 「自己分析」や「企業研究」

授業を通して、特に自分に適した業種や職種について、初めて考える機会を得たという学生が多く、関心のある企業について自分の適性と合わせて、じっくり考えることができた。



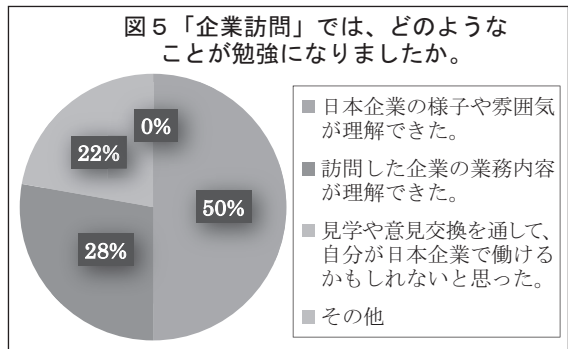
④ 「履歴書」や「集団面接」

本学の就職活動用の「履歴書」を使って実際に書くことで、自己のPRできる点を確認できた。また、「集団面接」の模擬練習も、初めてで緊張した様子が見られたが、本学の就職支援センター教員からの面接指導や助言を受け、印象深い体験となった。



⑤ 「企業訪問」

企業訪問では、日本企業を訪問することで、実際の日本企業の様子や雰囲気を体験することができ、貴重な機会を得ることができた。もっと多くの日本企業を見てみたいという要望も多かった。



### 3-2. 「ビジネス日本語」の授業を通しての感想や要望

感想：・この授業を通してビジネスにおけるマナーや敬語などについて勉強し、役に立った。

- ・この授業を通じて就職についての知識と情報をいただきました。もっとこのような授業を受けたいです。
- ・日本での就職に大変役立った。選んでよかった。
- ・面接演習や企業訪問がとてもいいチャンスでした。はじめての面接はとても緊張しましたが、面白かったです。
- ・この授業を通して、日本の敬語および会社でのマナーなどについていろいろ勉強しました。自分の今後の就職にかなり役に立つと思います。
- ・尊敬語をわかりやすく説明していただきよかったです。
- ・実際に日本語をどのように使うのかわかってきました。敬語についていろいろ勉強しました。本当にいい勉強になりました。
- ・電話対応の練習を通して、さまざまなことを勉強できました。
- ・国へ帰って就活をする時も、このビジネス日本語の授業で学んだことを活用することができると思います。
- ・企業訪問で日本企業の様子を初めて見て、自分の今後の進路を考え直しました。
- ・自分に対して認識不足であることがわかった。

要望：・企業をもっと見学したいです。

- ・履歴書の書き方と面接の際のマナーについてももっと詳しく説明してほしいです。
- ・企業訪問の機会を増やして、会社の方のお話をもっと聞いてみたいです。
- ・留学生に対して、日本での就職活動についてもっと情報がほしいです。

集団面接の感想：

- ・面接のときに、面接官にどのような印象を与えたらよいか理解できて、きっとこれからも役に立っていく経験だと思います。
- ・面接のときに、緊張していたので、答えられることも答えられなかったことがありました。終わったときに、もっとこう答えたらよかったと思いました。みんなの目線や動作を見て、自分もこう見えるのかなあと思いました。人前でも緊張せずに話せるように頑張りたいと思いました。

- 自分の知っている言葉が、面接のときに聞き取れなく残念でした。もっと日本語を高めたいと思います。
- 質問に答えるとき、自分が伝えたいことはだいたい話しましたが、他の学生たちと比べて内容は少し少ないと思いました。もっと自己PRと自分の経験を話したらいいと思います。笑顔で答えるのも今後注意しなければなりません。
- 先生たちの笑顔とやわらかい声が、私に安心感を与え、緊張した気持ちもなくなりましたが、やはり初めての面接は難しかったです。面接の練習は本当にいいチャンスだと思います。
- 面接で答えるときは、会社を志望する理由と自分はどんな人なのかをしっかりと面接官に伝えることが大切だと思います。自分の経験とか関わったエピソードを話するとよいイメージを与えられると思います。

#### 4. 考察

近年の「アジア人材資金構想」の「高度実践留学生育成事業」や「留学生 30 万人計画」により、留学生の募集・選抜から専門教育・日本語教育、就職活動支援が全国で展開されるようになった。そのためか、日本企業に就職を希望する留学生も年々増加している。当初は日本人学生の就職活動に刺激を受けて動いていた留学生も、現在では語学やその能力を武器に日本人学生が羨む日本企業に就職していている。

留学生は、研究者を目指す留学生も多いが、それ以外に帰国して日本に関連する行政機関や企業に就職する学生も多い。また、留学している間は各自の専門以外に日本語能力はもちろん実践的な日本語を求める傾向にある。敬語に関しては特に関心が高く、敬語を使った電話の受け答えやビジネス文書、ビジネスマナーなどに関心が高まる一方である。

日本の企業文化は独特な日本文化の一つであると考えられるが、留学生が帰国し現地の日本企業で働く場合はその企業文化を知っておくと、入社後も多くの実践面で役立つことが多いと推測される。日本語を習得した留学生は、海外の企業よりも現地の日本企業で働く方が働きやすい環境が得られる場合もある。一方、日本の企業文化に溶け込むことができれば、将来日本企業に就職しても、いいポジションを得る可能性が高いと思われる。

こうした意味で、日本と諸外国との橋渡しを担う人材を育成する機関として国際交流センターは重要な存在であると考えられる。現在、中国の孔子学院など中国語を教える機関は世界に広がり、中国語を学ぶ留学生が増える傾向があるが、日本経済のみならず、魅力ある

日本文化が発信され、質的に高い日本語指導を保持できれば、日本語を学びたいという留学生がこれからも増え続けるであろう。大学で「ビジネス日本語教育」を指導することは、国策的にも日本の将来を考える意味においても意義あることであると考えられたため、今後も留学生の意向を汲んで実施していきたい。本稿を通して「ビジネス日本語教育」の授業のあり方やその方向性について再確認することができた。

謝辞：本授業の「集団面接の練習」にご協力くださった本学就職支援センターのキャリア  
カウンセラー石井美帆先生に心より感謝致します。

## 注

- (1) アジア人財資金構想「高度実践留学生育成事業」は、2007 年から 2012 年度までアジアの相互理解と経済連携の促進に向け、経済産業省と文部科学省が実施した事業である。産業界と大学が一体となり、留学生の募集・選抜から専門教育・日本語教育、就職活動支援までの人材育成プログラムを展開した。(http://www.ajinzai-sc.jp/、2015 年 1 月 2 日)
- (2) 2008 年に策定された「留学生 30 万人計画」、即ち 2020 年を目標に優秀な留学生 30 万人を戦略的に獲得し、アジアをはじめ諸外国に対して知的国際貢献を目指そうとする国の施策である(「留学生 30 万人計画」骨子の策定について [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/20/07/08080109.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/07/08080109.htm)、2015 年 1 月 2 日)
- (3) SPI (Synthetic Personality Inventory) は日本初の総合適性検査として、企業の入社試験において高頻度で利用される。適性検査としての SPI の特色は、検査が能力適性検査と性格適性検査の 2 つに分かれている。能力適性検査では受検者の能力的適性(言語能力・非言語能力)が判定され、性格適性検査では性格的適性や態度的適性が判定される(『日経就職シリーズ SP 12 の完璧対策』(2012))。

## 参考文献

- 『映像で学ぶビジネス日本語 DVD 教材』(2005) 株式会社日本映像教育社、vol.4～vol.10。  
『業界選び・仕事選び・自己分析・自己 PR』(2012) 高橋書店  
『新实用日本語新ビジネスマン物語』(2008) 新宿日本語学校  
『日経就職シリーズ SP 12 の完璧対策』(2012) 日経 HR  
福岡昌子 (2015 a) 「留学生の就職に関する意識調査とビジネス日本語教育への示唆」『三重大学国際交流センター紀要』第 17 (10) 号、本号掲載。  
福岡昌子・趙康英 (2013) . 「グローバル人材育成と企業の留学生雇用に関する研究」『三重大学国際交流センター紀要』第 15 (8) 号、19-38。